

府立生野支援学校



テーマ:全ての子どもたちが、「やりたい・できた・わかった」と感じることが出来る授業づくり

概要

子どもたちの「やりたい・できた・わかった」を育む授業の推進

令和元年度、生野支援学校では、小学部の授業を対象に、子どもたちの「もっとやりたい!」という気持ちを育むための授業について取組みを進めました。取組みの窓口となる「プロジェクトチーム(各学年1名の教員と部主事)」を編成し、パッケージ研修支援の対象授業の分析を通して、小学部全体で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と学習評価の充実について検討しました。

最後に、この取組みを通して得られた授業改善のポイントを整理し、校内で全体共有を図りました。

*今年度のパッケージ研修支援を通じた授業改善の取組みは、教育センター支援教育推進室の調査・研究と連動しています。

実施スケジュール

Research

5月中旬

担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

6月5日(水)

「全体会」(小学部)

テーマ「全ての子どもたちが『やりたい・できた・わかった』と感じることのできる授業づくり」

Plan

7月11日(木)

事前授業・授業後の協議及び各自の授業実践の振り返りと交流(小学部)

Do

11月1日(金)

研究授業

11月7日(木)

研究協議及び各自の授業改善の取組みの交流(小学部)

Check & Act

12月中旬

アンケート集約

全体会

6月5日(水) 「全ての子どもたちが『やりたい・できた・わかった』と感じることのできる授業づくり」

支援教育推進室指導主事より

- ワークの流れ
- 個人ワーク (5分)
 - 授業づくりのテーマ
 - 全ての子どもたちが「やりたい・できた・わかった」と感じることが出来る授業
 - グループ交流
 - 個人ワークに沿って、それぞれが発言
 - 交流: 困っていることやよかったこと等あれば...
 - ☆結局のところ...授業づくりの授業改善において何が大切? など
 - 全体発表 (各2分)
 - ~どのような思いが伝わりましたか。
 - ☆授業づくり、授業改善には何が大切??

ワークシート例

授業名: 商店ごっこ (本番)	対象 (児童数)	どの場面で	どの観点で	どのような改善を
A	お倉さん	やさい		たけのこ、じゃぶじゃぶの汁、文房具や具体物を準備 ⇒授業「ゆめやま」先週 →話し・聞き先を促す
B	お倉さん	でんぱ		店員の作業工程を記した写真カードも準備 ⇒カードでできる場面設定 ⇒できるといふ達成感: 自己肯定感の向上
全体	活動全般	わかった		場面割りの明確化 ⇒具体例ややり、場の雰囲気 ⇒「物」の仕方、場ごとの場割

授業づくりのポイントや主体的・対話的で深い学びについて整理しました。また、3つの学びについて、自身の授業で考えることができるように簡単なワークを行い、班別協議で情報を共有しました。(資料は抜粋)

研究授業

小学部4年 「生活」

学年・教科：
単元名：

「自分で選んで引っ張ろう！」

（「大きなかぶ」を題材に）

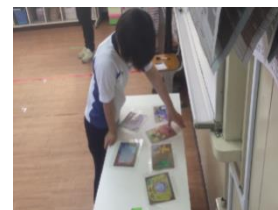


「全ての子どもたちが、『やりたい・できた・わかった』と
感じることができる授業づくり」

研究協議の
ポイント

3つの学びの視点を踏まえた「授業づくりチェックリスト」（大阪府教育センター：授業づくりガイドブック）を活用し、授業に参加している子どもたちが、「やりたい・できた・わかった」と感じている場面を、参加者全員で振り返りながら協議を行いました。

また、チェックリストを活用して、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点で、今自分自身が行っている授業の振り返りを行い、どのような学習活動や支援・教材の工夫が、子どもたちの学びにつながったかを確認しました。



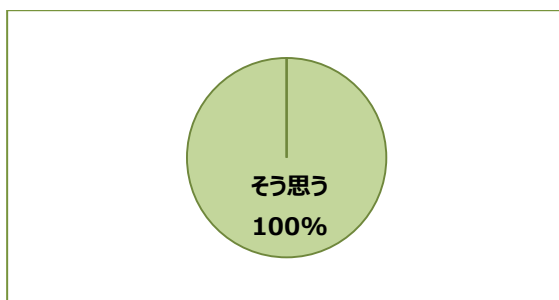
成果

「主体的・対話的で深い学び」の視点を、授業全体や児童それぞれについて考えていくことで、子どもたちにとって今何が必要で、どのように学ぶのかが、より具体的になりました。

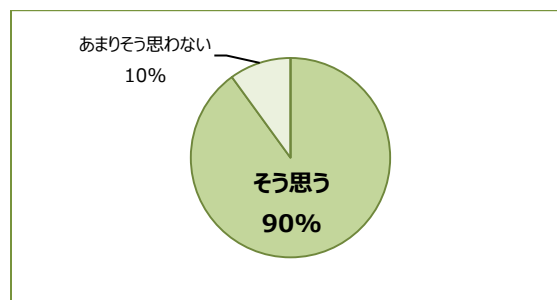
全ての子どもが参加できる授業や待ち時間を減らす方法等、大きな課題について、全教員で共有し、考えることができました。授業について担当者だけでなく、一緒に考え、他の教員に見てもらい協議を進めていくことで、さまざまな改善案がでました。子どもたちの変容、支援・指導の工夫など自分では気づくことができない発見が多くありました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想など)

- ・ パッケージ研修支援を受けることで、授業研究の体制の基礎的部分ができてきた。これを維持継続していくことが大切だと感じた。
- ・ 今後の本校の授業づくりに役立った。
- ・ 学習指導要領もかわり、授業の目標と評価の一体化が重要となってきました。多様な子どもたちが在籍するなかで、一つの授業で目標をどのように設定し、どのように手だてを組み立てていくのかをこれまで以上に考える必要があると感じた。
- ・ それぞれの実態に合わせての指導は、私自身の課題であり、どの児童にも「なるほど」「そういうことか!」となる指導が理想である。その為にどのように教材を工夫し、手だてをしていくべきなのか、たくさんの意見を実際に実践しながらも、課題が増えていく…その繰り返して、一人ひとりが日頃の授業の在り方を考えるきっかけにもなったように感じた。
- ・ 授業をするにあたって、どこがポイントか目的や手段(めあてや授業内容)を整理することができる機会だったと思う。教員一人ひとりが、今回の研修内容を踏まえた授業づくりをすることで、授業力の向上につながると感じる。
- ・ 今まであいまいだった観点にしぼって話し合うことができてよかった。